

4376 地球のかおり：「水平線の陽光」(産経新聞) 心模様

たわいない自問自答。選択に悩む瞬間。

水平線の日の出に集中するか、カニの動向に集中するか？

地中海だったか、場所が特定できない。

実に楽しいひととき。

早朝だった。日の出を見たく海岸線にすわっていた。

まだ、薄暗い状況、人影もない。

ツクアニを始め、小さな生きものは、すでに働いている。

その仕草が面白く、何とはなしに見ていた。

周囲がだんだんと明るくなってきた。

水平線の向こうから、太陽が顔を出しそう。

このカニだけではない。何匹かのカニが、せっせと活動している。

そして、このカニと出会った。

カニとの距離間はあった。

なぜか、このカニに興味を持った。見るから観るへ。

どんな動きをし、どこへ行くのだろうか、興味を持った。

ともかく、動きが面白く、私の心をとらえた。

水平線の太陽も気になる。

しかし、カニから、目を離せない。

どうしたらいいか悩んだ。馬鹿みたいなひととき。

このカニさんとは、一期一会。

二度と出会うことはないだろう。

見過ごし、通り過ぎるには、惜しい気がする。

そして、観察を始めた。

動きが、実に面白い。集中した。

突然の気づき、新発見。

突然、出現した、カニの影に感動、原因はわかる。

カニを刺激しないように、距離を保った。

ほんの少しでいいから、じっとしてほしい。

そう願った。カニから、目を離せない。

じっとしてくれない。

進行方向も、予測できるように、予測出来ない。

日の出は、五感で感じるしかない。

初めての体験である。これが、何とも面白い。

呼吸を整えた、と言うより、息を止めた。

秘かに、体と心が動いていた。

カニの影が、一番長くなったところで、シャッターを押した。

デジタル写真ではない。

ロー感度の、フィルムでのスケッチ。

その場で確認できない。帰国後が楽しみ。

うまくいっていることを願う。

大きな仕事をし^お終えたような気分。

その後、陽光を楽しみ、海岸線を散策した。

朝の始まりに、いい事があると、

その日、1日が楽しいもの。

今日も、いい日になりそうだ。